

# 彦名通信

COMMUNICATION MAGAZINE NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY (KOSEN), YONAGO COLLEGE

2022

12

vol.208



高専祭(模擬店)



高専祭(コスプレ)



ジュニアドクター育成塾集合写真

## Index

高専祭	2
特別行事について	3

### クラス便り

1年生遠足・高専祭	3~4
2年生企業見学旅行・高専祭	5~6
3年生工場見学旅行・高専祭	6~7
4年生インターンシップ	8~9

### 課外活動報告

ヨット部・卓球部	10
超小型衛星KOSEN-2について	10
ロボコン中国大会・プロコン全国大会	11
オープンキャンパス	12
ジュニアドクター育成塾	12
としょぶらり	13~20

# 高専祭を開催しました

学生会長 小野 晃 季

今年度の高専祭は、保護者のみではありますが3年ぶりとなる外部参加可能で開催することができました。結果として、とても良い高専祭が開催できたと思っています。3年生以下の学生にとっては初めてとなる形での開催でしたが、各クラスの企画や、高専祭名物である軽音楽同好会のライブなど、とても盛り上がったことが個人的にとっても嬉しかったです。ご協力頂いた学生、先生方、保護者の皆様心からお礼申し上げます。コロナが収まりつつある中でも、満足のいくものを作りづらい状況を歯がゆく思いますが、その中で、学生全員が楽しめる高専祭を年々良くしながら作り上げ、そのバトンを次の代へと繋げていくことを大事にしていきたいと考えています。来年、世の中がどのようなになっているか想像もつきませんが、コロナ禍での経験を生かして、より素晴らしいものに発展していくことを心から願っています。

高専祭実行委員長 徳田 来夏

今年度の高専祭では、飲食企画、保護者の入場を3年ぶりにすることができました。昨年度は屋外で行われた高専祭名物である軽音同好会のライブも例年通り第一体育館で行われ、コロナ禍を感じさせないような盛り上がりが見られました。1～3年生は、初めての経験が多い高専祭であったと思います。多少の制限はまだ残っていますが、例年通りに近い形で開催することができ、皆さんの生き活きとした姿が見られ、運営側としても非常に楽しい高専祭にすることができました。これは、全学生・先生方のご協力があったからこそです。まだ不完全な形ではありますが、高専祭を盛り上げていただきありがとうございました！



軽音ライブ



メイド喫茶(クラス企画)



学生会一同



大盛況な高専祭の様子

# 特別行事について

キャリア支援室長 権田 岳

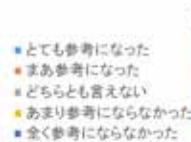
特別行事では、クラスの親睦を図ることに加え、キャリア教育の一環として、1年生では遠足、2年生では新規授業科目「地域学」の研修旅行、3年生では工場見学旅行、4年生ではインターンシップ報告会、5年生では米子市総合政策部長を招いてキャリア講演会を実施いたしました。1年生の遠足では昨年同様、レクリエーションと企業見学を組み合わせた内容とし、2・3年生では、3年ぶりに宿泊をとまなう企業見学旅行を実施することができました。学生の皆さんが、就職知識・経験を身につけ、将来に活かしてくれることを望みます。

ご協力いただきました企業、自治体の関係者のみなさまに厚くお礼申し上げます。

1年生 遠足の協力企業		2年生 「地域学」研修旅行の協力企業	
1	中山精工	1	寺方工作所、リコーインダストリアルソリューションズ、井木組
2	守谷刃物研究所	2	日本マイクロシステム、懸樋工務店、大真空
3	イナテック鳥取	3	中国電力ネットワーク、ケーオウエイ、ミヨシ産業
4	中国電力	4	美保テクノス、片木アルミニウム製作所、戎屋化学工業、山陰酸素工業
5	大島機工	5	フィディア、日立金属、パソナテック、オネスト

3年生 工場見学旅行の協力企業等	
M	帝人ナカシマメディカル、ナカシマプロペラ
E	椿本チエイン、三井E&Sマシナリー
D	中国電力、JFEスチール
C	須磨海浜水族園、トクヤマ、揖保乃糸
A	戸田建設、広島市環境局

遠路を考える上で参考になりましたか？



地元企業への理解は高まりましたか？



2年生 「地域学」研修旅行 参加学生アンケート

## 秋の学校行事を終えて

### 遠足を終えて

1年学年主任 教養教育部門 大庭 経 示

1-1 内田 雅人

1年生にとっては初めての学校行事らしい行事となる遠足と高専祭がありました。

今回の遠足で僕たちは沢山の経験と知識を得ることができました。

遠足では、午前には山陰を代表する企業を見学させていただきその規模の大きさにふれて強い刺激を受け、午後のクラスごとのレクでは思い切り楽しみながら友人との距離を縮めました。

今回企業見学に行った中山精工株式会社は、企業から注文を受け精密シャフトの製造加工を行う会社です。今回はその作業風景を見学させていただきました。僕の中で、機械の部品を製造する企業は全ての作業を手作業で行うイメージでした。しかし、中山精工さんは、業務の大半にプログラミングを取り入れ、ロボットによって自動化されていました。僕は高専に入学して、機械工学とプログラミングのつながりがよくわかりませんでした。今回の見学を経て、それらが深く関わっていることを知りました。

高専祭では、はじめは手探り状態でしたが友人と協力して初めてのクラス企画を見事に成功させました。また、部活や同好会などの飲食企画やステージ企画をまわって中学の文化祭とはちがう「高専祭」の雰囲気を堪能しました。

クラスの一体感が高まった楽しく充実した行事でした。



遠足を楽しむ学生



高専祭(クラス企画)の1年1組

## 遠足を振り返って

### 1—2 松本 佳明

私はこの遠足を振り返って、学びあり楽しさありのとても貴重な経験だったと感じています。企業見学では、時代の変化とともに改善し続けることの大切さを実感しました。私たちが仕事をする上でも、これはとても大変なことでもあると思います。私たちの世代では、職場体験もコロナ禍によりなかったので、とてもためになったと感じています。その後の遠足は、大山「森の国」でバーベキューやストレッチでクラスの仲間と楽しい時間を過ごすことができました。とてもよい経験になったので、この遠足で得たものを心に留めて学校生活も頑張りたいと思いました。



大山森の国で

## 初めての高専祭

### 1—3 福住 陽路

今年の高専祭で私はクラス企画が印象に残っています。1—3はクラス企画として巨大すごろくをしました。当初「テーマは『マリオパーティー』でいく」ということしか決まっておらず、本当にうまくいくのか不安でいっぱいでしたがそれぞれが割り振られた仕事をしっかりとこなし、時にはほかのグループと連携を取りながらクラス一丸となって準備を進めていったらなんと想定通りのものになり、来てくれた人にも楽しんでもらったのでよかったです。来年はもっと規制緩和されて来る人も露店も増えて、花火なんかもあがったらいいなと思いました。



高専祭を楽しむ1—3

## 島根原子力発電所を見学して

### 1—4 中田 杏南

今まで、火力発電、水力発電、風力発電などの発電方法は知っていましたが、今回の見学を通して、原子力発電について学ぶことができました。1号機、2号機、3号機や防波壁を間近で見て、スケールの大きさに圧倒されました。また、福島第一原子力発電所の事故のようなことが起きないように、あらゆる場面を想定した対策がなされていました。

いつも当たり前のように使っている電気は、安定した供給や周波数、また環境への配慮などを考慮して作られていて、そこにはたくさんの人々の努力があることが分かりました。これから電気を使うときには感謝の気持ちを忘れず、また発電についての課題を解決するにはどうすればいいか考えていきたいです。



高専祭クラス企画での集合写真

## 高専祭を振り返って

### 1—5 今出 智子

1年5組は高専祭でお化け屋敷を企画しました。はじめは準備が思うように進まず不安になりましたが、クラスで協力してなんとか当日までに完成させることができました。高専祭当日は思ったよりもたくさんの方が来てくれてとても盛り上がりました。シフトが思ったよりも長かったり、壁につかっていた机が倒れたりするハプニングもありましたが、みんなでアイデアを出し合い、最後までクラス全体で楽しむことができました。

今回の高専祭を通してさらにクラスの団結力が強まったと思います。準備期間も含めて、とてもいい思い出になりました。



お化けメイクをする学生たち

## 地域学の企業見学旅行・高専祭を振り返って

2年学年主任 教養教育部門 竹内 彰 継

2年生は、10月20、21日の特別行事で「地域学」の企業見学旅行を行いました。「地域学」とは従来のオープンファクトリーを授業化したもので、地域や地元企業への理解を深めるために総合工学科で新しく導入された科目です。実際に地元企業を見学することができ、学生達にとって将来に向けての良い経験となりました。ご多忙中、見学旅行にご協力くださいました企業の皆様にお礼申し上げます。

また、11月3、4日には高専祭が開催されました。当日は天候にも恵まれ、各クラスの催し物で、たくさんの学生達が楽しんでいたのが印象的でした。



企業見学の様子

## 高専祭「巨大迷路」

2-2 (A) 上山 陽詩

私たちのクラスは巨大迷路を企画しました。今年は保護者や家族の入場が可能だったため、大人から子供まで多くの方々に巨大迷路を楽しんでもらうことができました。予想以上にお客さんが多く、迷路の壁が崩れるなどのハプニングがありました。クラスのみんなで協力して無事二日間を終えることができました。製作過程では材料が足らず、何度も買い出しに行って放課後遅くまで残り作業をしました。大変な作業でしたが、高専祭後では高専祭前より仲が深まり雰囲気も良くなったと思います。このクラスでの良い思い出の一つになりました。



巨大迷路入口

## 研修旅行、高専祭を終えて

2-1 (E) 藤原ダイヤ

1泊2日の研修旅行では、主に機械分野、電子分野、建築分野の企業を3社見学させていただきました。社員の方のお話を伺ったり、実際に工場を見て回ったりと貴重な体験を通して、自身の進路を考える良いきっかけとなりました。レクリエーションでは、大江ノ郷で友人たちと素敵な時間を過ごしました。

高専祭ではクラス企画で高専人生ゲームを行いました。初日からたくさんの方にご来場いただき、みんなで協力しながら楽しんで行うことができました。今年は、飲食店の屋台も数多く出展され、活気溢れる楽しい2日間でした。



2年1組のクラス企画「高専人生ゲーム」

## 研修旅行

2-3 (A) 高石 万里

この度の研修旅行を通して、コースの垣根を越えた学びをすることができました。中でも、中国電力(株)さんの俣野川発電所で実際に見た地下の発電装置には、強く感激しました。そして、(株)ミヨシ産業さんでCLTの製造工程を見学できたことは、私のAコースでのこれからの学びにおいて貴重な財産になると思いました。(株)ケーオウエイさんでは、印刷後の処理もできる複合機やオフィスを見られましたが、実際に開発した文具に触れなかったことが少し残念でした。

また、マリパーク多古鼻での宿泊や和久羅山登山では、クラスの親睦が一層深まりました。島根半島の日の出には感動しました。有意義な2日間を過ごすことができました。



和久羅山にて

## 地域学研修旅行について

### 2-4 (A) 三島 幸咲

私たちのクラスは三つの企業を見学しました。その中で一番印象に残っているのは戎屋化学工業です。戎屋化学工業は、プラスチック成形品を製造していますが、製造する機械の設計・開発も行っているそうです。化学の企業で機械の設計なども関係していると知って、一つの会社の中に様々な分野があることに驚きました。分野を越えて通じるものがあると目の当たりにして、視野が広がったように思いました。また、企業を実際に見学して、雰囲気や迫力などもわかりました。今回の見学で得たものを今後の勉強や将来に活かしていきたいです。



松江フォーゲルパークにてクラス写真

## 地元企業見学の感想

### 2-5 (J) 大橋 颯人

2年5組は、1日目は株式会社フィディアと日立金属株式会社安来工場を、2日目は2班に分かれて、株式会社オネストと株式会社パソナテックを見学させていただきました。

フィディアは施主さんの要望に沿った新築やリフォームを手がけています。アットホームな職場で気軽に質問などができ、充実した見学が出来ました。日立金属安来工場は圧延の技術を活かしたヤスキハガネを生産しています。実際に工場の中の見学をさせていただき、圧延の様子を見るなど貴重な経験ができました。

2日目は、私はオネストに行きました。オネストは「e商買DX」というWeb調達システムを開発・販売し、他企業の人的負荷の削減などの手助けをしています。社長から今後の人生に活かせるようなお話をいただきました。



日立金属株式会社安来工場にて

## 感慨ひとしお

### 3年学年主任 電子制御工学科担任 井上 学

コロナ禍前同様とはいえないまでも、工場見学旅行は山陽を中心に1泊2日で、高専祭は飲食企画可・同居家族まで参加可の形で行うことができました。この学年は、コロナ禍の影響から入学が遅れ授業は遠隔で始まり、さらに様々な学校行事を大幅に縮小した形でしか経験がなかったため、感慨ひとしおといった様子でした。

工場見学旅行では、この状況下でも快く受入れて下さった企業の方々へ心よりお礼申し上げます。また、ご理解ご協力頂きました保護者の皆様、ありがとうございました。そして、本校関係者の皆様、お疲れ様でした。



高専祭の様子(3D)

## 新たな気づきくれた工場見学旅行

### 3M 吉田 健悟

私たちは、岡山のナカシマプロペラと帝人ナカシマメディカルの工場見学に行きました。最初に実際の生産ラインを見たあと、働いている高専卒の先輩方と何人かのグループに分かれて仕事をした感想を聞いたり、生産ラインを見て質問したりしました。自分と歳が近い方からお話を聞くことで多くの事に共感することができました。入学後はコロナ禍でイベントが少なかったため、今回の旅行でクラスの団結力を高めることができたと思います。また、同時に知識を得て勉学へのやる気を上げる景気付けにもなりました。ご対応していただきましたナカシマグループの皆様、本当にありがとうございました。



工場見学先での様子

## 工場見学旅行を終えて

### 3E 西岡 七彩

私たちは岡山県の2つの企業を見学させていただきました。工場見学旅行を通して、授業で学んでいることが社会では実際にどのように活用されているのかを製造過程を見学したり、訪問企業先の方の話の聞いたりしてより具体的に知ることができました。

今回の工場見学旅行で一人一人が感じたことを忘れず将来に繋げていけるように残りの学校生活を過ごしたいと思います。また、一昨年、昨年と例年通りの特別行事を行うことができなかつたため、みんなで瀬戸大橋の夕日を見たり、遊園地に行ったりすることができて思い出に残る2日間になりました。



三井E&Sマシナリーでの集合写真

## 工場見学旅行を終えて

### 3D 佐野 颯音

今回の工場見学旅行は、多くの学びと沢山の思い出が得られ、間違いなく僕の人生の大切な1ページとなりました。

見学先で学んだことの中で特に大切だと感じたのは、コミュニケーション能力でした。また、資格の重要性を強く感じました。資格を持っているか否かでチャンスの総量に影響するため、すぐにでも取りたいと思いました。

高専生活の間に、授業のことだけでなく、人間関係や話術をさらに養いたいです。そして、資格取得のため、どのような資格があり、自分に何が必要なのか検討するところから始めようと思いました。



自由行動した広島市

## 工場見学旅行、高専祭を終えて

### 3C 角 恭輔

工場見学旅行では、1日目に神戸市立須磨海浜水族園のバックヤードを見学しました。普通に生活していればまず見ることが出来ない所を見る事ができ、貴重な体験をさせていただきました。2日目は揖保乃糸資料館へ行き、そうめんができるまでの工程や歴史を学びました。そこでいただいたそうめんはとても美味しかったです。家でも食べたいと思います、お土産にそうめんを買って帰りました。

文化祭では、3Cでメイドカフェをしました。準備が大変で上手く運営できるか不安だったけど、クラスメイトの皆がよく働いてくれたおかげで大成功でした。



メイド喫茶終了後の集合写真

## 工場見学旅行 in 広島

### 3A 阿形 遼子

1、2年生では、新型コロナウイルスの影響で行事がなかなか予定通りに行われませんでした。しかし、今回の工場見学旅行で初めてクラス全員で宿泊を伴う旅行ができました。この2日間で広島大学法学部新キャンパスの現場と、環境局中工場の建物内を見学しました。自由時間も友達同士で観光をしてとても充実した2日間でした。私たち3年生はこれから研究室が決まり、その後就職か大学編入の道を決めなければなりません。この見学を通して、実際の現場を見ることで自分のやりたい道が少し見えた気がします。この見学で、見たこと、学んだことを将来に活かしていきたいです。



戸田建設株式会社工事現場での集合写真

## 令和4年度インターンシップについて

4年学年主任 電気情報工学科担任 石倉 規雄

本校では、本科4年生と専攻科1年生がインターンシップに参加しています。今年度インターンシップ受入可能と回答を頂いた件数は、昨年度より1割程度多い約380件でした。

学生の申請サポートなどを通じて、社会全体がコロナ前から良い意味で大きく変化していると感じました。学生はコロナ感染防止やオンラインに慣れ、企業、団体様はスマホ対応の申込フォームや、オンライン職業体験を取り入れて柔軟に対応される場合が増え、学校側は募集や学内情報公開の電子化が進みました。

台風やコロナ感染拡大により急遽日程変更や中止になることもありましたが、概ね予定通りにインターンシップを実施することができました。参加できた学生は、より卒業後の自身のイメージをつかむことができ、進路選択に向けてモチベーションが上がったのではないかと思います。中には複数件のインターンシップに参加したり、自身で独自にインターンシップや会社説明会を探し出し参加した人もいました。

このような経験をぜひ今後の進路選択に役立

てほしいと願っています。

残念ながら今回のインターンシップに参加できなかった学生の皆さんも、秋季、冬季は就職に向けた説明会の開催や冬季インターンシップの募集があります。また、業界によってはすでに就職活動が始まっています。

学生の皆さんには、自身の進路に向けて、興味があれば積極的に自らアプローチしてほしいと思います。最後になりましたが、ご協力くださった企業、団体の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



## 瀬戸大橋の内側で

4M 岸本 旺亮

私は、インターンシップで株式会社ブリッジ・エンジニアリングにお邪魔させていただきました。この企業は連絡橋の整備、保全を行っています。つまり、「ものを作る」ではなく「ものを維持する」ことが仕事です。それは、普段の高専生活では経験できないことです。そのことに惹かれ、この企業にインターンシップを申し込みました。

特に印象に残っているのは、瀬戸大橋内部の整備作業を見学させていただいたことです。瀬戸大橋は、車道の下に線路があるという、二段ベッドのような構造になっています。作業員の方はその中間にある「内面作業車（写真）」に乗り込んで作業を行います。ブリッジ・エンジニアリングの職員の方の仕事は、その作業員の監督です。壁面の錆や欠損などを確認、修繕が主な作業です。

このほかにも、様々な体験をさせていただきました。就職先の参考にさせていただこうと思います。



作業時の内面作業車の様子

## インターンシップについて

4E 小谷 茉央

私は以前より電子回路の設計業に興味があり、その現場の雰囲気に触れてみたいと思い、今回株式会社モビテックのインターンシップに参加させていただきました。内容としては、他のインターンシップ生とのディスカッションや回路製作体験、現場で実際に使われているCADを用いての設計などを行い、また、配属された高専OBの方の話聞くことでどのように高専で身につけた知識を活かしているか、などを知ることができました。参加する以前に開発職に抱いていたイメージが変わり、設計業のやり甲斐や企業努力などを知ることができました。



インターンシップ先で議論している様子



## インターンシップ実習を受けて

### 4D 吉田 史門

私は夏季休業中の8月17日～30日の計10日間、愛知県名古屋市にあるイー・バレイ株式会社様で実習を受けました。まだコロナが収まっていない中、対面での自習を決断していただけたことは、感謝に堪えません。実習内容としては、プログラム開発工程を体験するという内容で、資料作りからプログラム開発、発表とほぼ一通りの工程を体験させていただきました。資料作りやプログラム開発など初めてのことが多くありましたが、周りにいる社員の皆様が快く相談に乗って下さいました。休みの時間には社員皆様から声をかけていただき、また歓迎会を開いてくださるなど、多くの交流を持つことが出来ました。

最後に、この実習を通して私は、実際の仕事の流れとイー・バレイ株式会社様の雰囲気、プログラム開発で重要な知識を知ることができ、今後の進路研究において大いに活かせる貴重な体験となりました。



発表の様子

## 学生にしかできないこと

### 4A 鐵本 怜士真

私はダイダン株式会社のインターンシップに参加させていただきました。建築設備に関して幅広い事業を展開されているダイダン株式会社で建築設備について知ること、離職率が低いという点で職場の雰囲気を知ること、何が足りないのかを確認し今後の活動に役立てることを目標に実習を行いました。実習は主に仕事内容の理解とCADを用いた設計作図、現場見学などを行い建築設備について理解を深めました。実習を通してダイダン株式会社は上下関係を感じない自由な職場環境で若手が活躍しやすく人を大事にする会社のため離職率が低いのだと納得しました。また建築業界全般的に資格取得は昇進や昇給、スキルアップで必須になるため積極的に取らなければならないと感じたのと、他の企業と比較するなど学生にしかできない体験をもっとするべきだと感じました。



CADを用いた設計作図実習

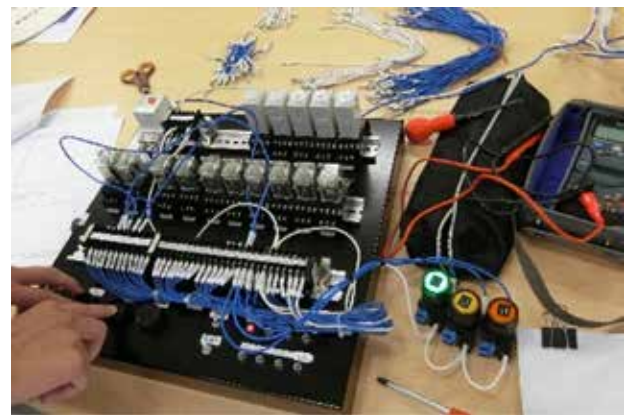
## インターンシップに参加して

### 4C 西口 杏梨

私は8月22～26日の5日間オンラインで、29日に対面で富士フィルム先進研究所のインターンシップに参加してきました。オンラインではSTPDサイクルという富士フィルムの考え方やコア技術、各部門に関して学んだり、課題を解決したりしました。毎日グループワークがあり、初対面の高専生と積極的に話し合い、解決していく中でコミュニケーション能力を伸ばすことができました。また、最終日にはコア技術を用いたSDGsの解決をテーマとしたパワーポイントの発表を行いました。研究員さんにも話を聞いた上で低コスト、効率的、実現のしやすさなどの様々な観点からチームで何度も試行錯誤して発表し、実際に商品を開発することの難しさを体験できました。

対面で行われた研究所見学では、工夫が施された施設の案内や実際に医療機器を作っている部門を見させていただき、富士フィルムの技術力の高さに改めて驚かされました。また、直接見学させていただいたことでオンラインでは分からなかった現場の社員の方々の雰囲気を見ることができ、自分が働いた時のイメージをすることができました。

インターンシップを通して自分を見つめ直すだけでなく、自分の夢をさらに具体的にすることや社会人のイメージを持つことができ、参加して良かったと思いました。



リレーシーケンス実習 4E 小川 直純 日鋼設計株式会社にて



ソフトウェア開発実習 4D 松下 颯真 株式会社八雲ソフトウェアにて

# 課外活動報告

## 国体入賞（ヨット部）

### 3D 山崎 朝陽

10月2日～5日に千葉市稲毛ヨットハーバーで行われた、第77回国民体育大会セーリング競技会へ、鳥取県の代表選手として少年男子レーザーラジアル級に出場しました。

第1レースではトップになることもでき、全体を通じてレースを楽しむことができました。海上では天候や風が目まぐるしく変わり、いろんな海面を体験することができました。レース中は、今まで体験したことがないような他艇との駆け引きをすることができました。

8位入賞できたのは、日頃から指導をしてくださったコーチ、セーリング連盟の方々のおかげだと思います。ありがとうございました。



レース前の山崎選手

## 全国高専体育大会卓球競技 女子団体・ダブルス・シングルス優勝

### 卓球部指導教員 情報システム部門

### 河野 清尊

第56回全国高専体育大会卓球競技が令和4年8月20日(土)・21日(日)に高知県立県民体育館で開催されました。昨年度から正式種目となった女子団体では初優勝（文部科学大臣杯）、女子ダブルスは3C土江亜依美・1-4常松世名ペアが優勝、女子シングルスは土江が優勝で常松が3位、土江はシングルス2連覇とあわせて3冠を達成しました。

全国優勝というプレッシャーと新型コロナウイルス感染拡大の悪環境の中で、高い目標を達成できたことは、選手の努力もさることながら、支えてくださった関係者の皆様のお蔭と心から感謝しています。3種目とも連覇を目指して努力を続けていきたいと思えます。



左から、河野、2-3池田悠希（マネージャー）、5A高野陽子、2-4長谷川ゆい、常松、土江、田中博美教員

## 超小型衛星 KOSEN-2 の開発と打ち上げ結果について

### 情報システム部門

### KOSEN-2 プロジェクトマネージャ 徳光 政弘

米子高専は、JAXA・革新的衛星技術実証プログラムの3号機に搭載された超小型人工衛星「KOSEN-2」の共同開発に提案代表校（米子高専を含む全国8高専）として参画しました。革新的衛星技術実証プログラムは、大学や研究機関、民間企業等が開発した部品や機器、超小型衛星、キューブサットに宇宙実証の機会を提供するプログラムです。本校からは電子制御工学科・生産システム工学専攻の学生が開発に参画しました。

KOSEN-2(質量:約2.7kg、寸法:約20cm×10cm×10cm)の主ミッションは、IoT分野で使われているLPWA/LoRaと呼ばれる通信方式を用いて、海上ブイから送信される海底地殻変動データを、八木アンテナを使って衛星で受信するものでした。また、KOSEN-2は2021年11月に打ち上げられた超小型衛星「KOSEN-1」の後継機にあたり、後継機開発を通じた持続可能な宇宙工学人材育成も主ミッションのひとつでした。

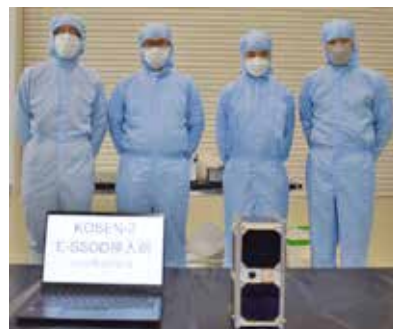
KOSEN-2の機体開発は2022年8月に完了し、2022年8月末にJAXAに引き渡しました。KOSEN-2はJAXA・イプシロンロケット6号機に搭載され、2022年10月12日9時50分43秒にJAXA・内之浦宇宙空間観測所から打ち上げられました。しかし、ロケットの第2段・第3段分離前に予定の軌道に投入できないと判断されて、ロケットは指

令破壊が実施されました。残念ながら、KOSEN-2の軌道上での実証実験はできなくなりました。

衛星開発にあたり、多くのみなさまからご声援・ご支援をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。今回の衛星開発で得た経験・ノウハウを全国の衛星開発チームと共有し、次号機の開発へ活かしていきたいと思えます。



KOSEN-2の八木アンテナ展開後の想像図(画像:JAXA提供)



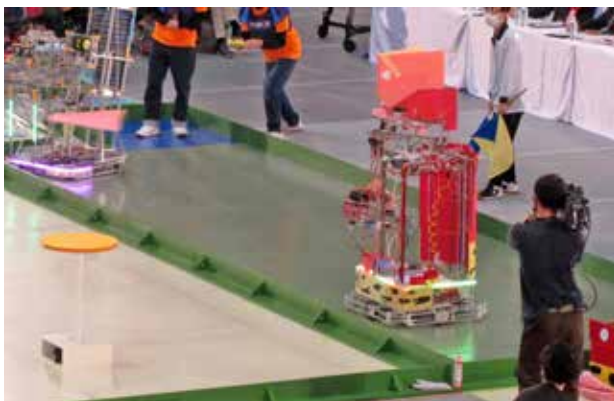
KOSEN-2のJAXAへの引き渡し作業(参画した全国高専生・教員と撮影、筆者は一番左)

## 高専ロボコン 2022 中国地区大会結果報告

### 5M 小暮 芳渚

紙飛行機を飛ばして指定の場所に着地させよという競技課題に対し、Aチームは2種類の射出機構を持つロボットを製作しました。小型の紙飛行機を次々発射する機構と大きな紙飛行機をゆったりと飛ばす機構それぞれの特徴を活かし、安定して勝利すること、目にも楽しい試合をお届けすることが目標でした。本番で思い通りの動きをお見せすることはできませんでしたが、他チームより大きな紙飛行機を飛ばしたことやキャッチャーな妖怪の装飾で観客を楽しませたことが評価され、特別賞をいただくことができました。

皆様のご声援、ご協力に深く感謝申し上げます。



大会出場ロボット「妖怪 紙飛行鬼」

## 高専ロボコン 2022 中国地区大会を終えて

### 4D 枝谷 潤

今年のルールでは3年ぶりの対戦形式のルールでした。後輩からすると初の対戦形式のルールとなります。作製期間中は、自分のスケジュール管理能力のなさやチームをまとめる力の低さをひどく痛感しました。



大会出場ロボット「Yona Glider」

地区大会当日では、練習時には気にしないで良かった空調などの点なども影響し、ベストパフォーマンスを見せることは叶いませんでした。しかし、何とか動作しているところを見せることができ、企業賞受賞という形になりました。オフライン大会特有の雰囲気などを後輩が感じることができ、来年以降に役立てばと思います。最後になりますが協力して頂いた方々や応援して頂いた方々に深く感謝いたします。

## 第33回全国高専プログラミングコンテスト(課題部門)に参加して

### 5E 鈴木魁斗、西村健人、山本善博、S1 加藤誠 指導教員 電気電子部門 教授 松本 正己

この秋、電気情報工学科有志が集まり「StudioH2」-お化け屋敷構築支援環境-を開発し、全国高専プロコンに参加し敢闘賞をいただきました。このシステムは、VR技術を用いたお化け屋敷を開発するためのプログラムです。ゲーム開発エンジンUnityを使って、HMDで体験できるVRお化け屋敷を簡単に作り上げていくことができます。コントローラを懐中電灯に見立て、屋敷の中の「お宝」を取って返ってくるというゲーム仕立てになっています。ネットワーク上で映像を鑑賞しAIで診断し、恐怖度を採点する機能も実装し、課題である「新しい楽しみ」を生み出すことができました。



システム開発メンバー (Gメッセ群馬・デモブースにて)

## 第33回全国高専プログラミングコンテスト(競技部門)に参加して

### 3D 吉田倅野 2-3(A) 遠藤諒悟 2-1(E) 濱田悠太

今回、私たちは同時に読み上げられたかるたをコンピュータに聞き分けさせ、正解のかるたをとるという問題に挑戦しました。今まで授業で取り組んできた問題とはかなり毛色が異なり、構想段階で長い期間、プログラム開発でつまづいてしまいました。本番では準備不足によるアクシデントが重なり、回答提出自体ができない状況にも一時陥りました。なんとか1問は正解しましたが予選敗退で、悔しさの方が何倍も大きいです。ただ全国の高専が集まる大会に現地参戦できたことは貴重な体験なので、この先忘れないようにしたいです。



プロコン 2022 競技大会看板前での記念撮影

# 令和4年度 オープンキャンパス

教務主事 新田 陽 一  
オープンキャンパス担当 権 田 岳

8月10日（水）・11日（木・祝）の2日間、令和4年度オープンキャンパスを開催しました。今年度は、県内外より431名の中学生に参加いただきました。

寺西校長からの歓迎挨拶の後、学校概要説明が行われ、その後、各コース（機械システムコース、電気電子コース、情報システムコース、化学・バイオコース、建築デザインコース）の展示コーナー見学や実験・実習を体験しました。参加者は、将来を考える上で米子高専への理解や興味を持つ良い機会となったようです。

コロナ禍でのオープンキャンパス開催となりましたが、万全な感染症対策を行い無事に終了することができました。今後も米子高専の魅力をより多くの皆さんに知ってもらうため、工夫を凝らしたオープンキャンパスを開催していきたいと思っております。



コース説明の様子

## 米子高専ジュニアドクター育成塾について

代表 化学・バイオ部門 榎 間 由 幸

米子高専は今年度、JST（科学技術振興機構）「ジュニアドクター育成塾」事業に採択されました。本事業は、将来の科学技術イノベーションを牽引する人材育成に向け、高い意欲や能力を有する小中学生の、科学的・論理的思考力等を伸長することを目的とした早期教育プログラムです。

本校では「KOSEN教育の強みを最大限に活かした科学に熱狂的な情熱を持つジュニアドクターの育成」と題し、小中学生40名が、課題学習や体験講座等に取り組みます。7月30日（土）の開講式に始まり、多様な分野の実験や座学、工場見学等をおこなっています。最長5年間のプログラムで、プログラム後半では本校の研究室に配属され、より専門的な知識の習得、さらには学会発表を目指します。また、本校学生もメンター（指導補助員）として塾生の指導にあたっており、学生の経験・教育の場にもなっています。

本校の有する専門性の地域への還元、次世代の博士育成、都会と地方との理系教育格差解消、リケジョ（理系女子）育成を目指し、学校を挙げて取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。



講座の様子



ISSN 1344 - 5634

米子高専図書館報  
第115号令和4(2022)年12月 発行  
米子工業高等専門学校図書館

## 「ビブリオバトル」を開催しました

図書館・リベラルアーツセンターでは、「ビブリオバトル 2022」を11月3日(木・祝)に、高専祭の中のイベントとして11時からロータリーステージで開催しました。

ビブリオバトルについての説明は、「知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト」やYouTubeの動画などを参照してください。(昨年度の様子は、『としょぶらり』第112号に掲載しています。)

今回の出場者(バトル)は下記の7名でした。

学年・クラス・名前(発表順)	紹介図書(著者)
3E 松本 颯人	赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。(青柳碧人)
3E 野田 柚月	TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ(TEX 加藤)
3E 王 梓安	神鵬剣俠(しんちょうけんきょう) (金庸(きんよう))
3D 三井 朱寧	君のクイズ(小川哲)
1-3 福住 陽路	日本以外全部沈没(筒井康隆)
1-3 阿部 奏	探偵が早すぎる(井上真偽)
3D 三宅 智仁	精霊の守り人(上橋菜穂子)

プレゼンの時間は1人・3分間で(公式ルールは5分間)、出場者が本を持参して、ロータリーの石の上で発表しました。

図書委員長の4A 川部知歩さんが司会を務め、ルール説明や出場者の紹介をし、図書館スタッフがタイムキーパーなどの補助をしました。

図書委員会(10月)で今年度のビブリオバトルをいつ行うかを話し合った際、高専祭で実施すれば多くの人に見てもらえてよいのではないかという意見が出され、みんなの賛同を得て高専祭で初めて行うことになりました。



ビブリオバトルの様子

## ビブリオバトル

幸い天候に恵まれ、屋外で注目を浴びたものの、高専祭の他のイベントや出展(出店)に関わったりそれらへ移動したりする学生たちが多く、ビブリオバトルを最初から最後まで観戦してくれる方は残念ながら少ない状況でした。出場者も、一室の静かな環境で本の紹介をしたかったようです。



ビブリオバトルの様子

ともあれ、出場してくれた学生、立ち止まって観戦していただいた来場者の皆さん、関係者の方々、ありがとうございました。

なお、通常のビブリオバトルでは、それぞれの本の紹介の後、質疑応答の時間を取り、また、「一番読みたくなった本」という基準で参加者が投票を行って「チャンプ本」(最優秀賞)を決めますが、今回は省略して出場者全員に参加賞を贈ることにしました。

### ★出場者の感想を掲載します。

この度ビブリオバトルに参加してすごくいい体験だったと思いました。まずは人々の前で何かを発表する機会が少なく、少しの緊張はありましたが自分を鍛えるチャンスだったので楽しかったです。そしてみんなに自分が好きな本を紹介して、みんなが面白いと感じてもらうことだけでもやり甲斐があったと思います。(王)

今年のビブリオバトルは高専祭で行われたので、例年よりも多くの人に聞いてもらえてうれしかったです。今回、自分の趣味と絡めて楽しく紹介文を書くことができたし、より多くの人前で話す練習にもなったので良かったです。他に紹介されていた本も小説だけではなく、いろいろなジャンルがあって面白かったです。(三井)

1年生の時以来のビブリオバトル出場でした。ノリで決めたので本も一人だけ別ジャンルでした。高専祭での発表でかなり焦りましたが、ぼちぼち出来たんじゃないかなあとと思います。楽しく紹介できて良かったです。図書カードがもらえてうれしいです。(野田)

ビブリオバトルに出場するにあたって、僕は2回ビブリオバトルの経験があったので何とかなるだろう、と楽な気持ちで本番に臨みました。しかし、ロータリーのステージのような不特定多数の人の前で話したことはなかったので、本番はかなり緊張しました。でも、いざ話し出すと緊張は解け、逆に僕の心は興奮を抱き始めました。そしてそのまま最後まで話しきってしまった後、僕はとても満ち足りた気持ちでした。来年はもっと多くの人に参加して、たくさんの本に出会いたいです。(福住)

僕はビブリオバトルを今までたくさん経験してきましたのですが、今回ほどのたくさんの方に聞いてもらったのは初めてだったのですごく緊張しました。ですが僕たちのビブリオバトルを見て、少しでも本に興味をもってもらえたらうれしいです。参加させていただきありがとうございました。とても楽しかったです!!(阿部)

過去に図書館でこじんまりとした中でのビブリオバトルは経験したことがありましたが、高専祭でのビブリオバトルはその時と比べて何倍も緊張しました。特に今回は、ロータリーの真

# ビブリオバトル・読書感想文コンクール

途中で発表という形で他の通行人の視線がもろに刺さり発表中ととてもつらかったです。発表中は全く台本など考えず、ぶっつけ本番で挑んだので時々詰まるところはありましたが、いい経験にはなったのかなと思いました。(松本)

僕は今回、初めてビブリオバトルというものに参加しました。他の学年の方で授業の中で行ったという方もいましたが、僕はそういったこともなかったので非常に緊張していました。僕が今回、紹介したのは精霊の守り人という作品で

す。本当は闇の守り人というこのシリーズの2作目の作品であり、僕の愛読書を紹介したかったのですが、手元に今なかったためにシリーズ1作目であるこの作品にしました。本番では原稿を途中までしか作成していなかったため、半分アドリブになってしまい、かなり焦りました。しかし、好きな作品を語るということで心理的なハードルも低かったのか、個人的にはかなり上手くいったと思っています。今回の機会を通して自身としても少し成長できた気がしているので良かったです。(三宅)

全国高等学校ビブリオバトルの鳥取県大会が12月11日(日)に倉吉市で開催されましたが、今回は本校からの出場者はいませんでした。

## 「読書感想文コンクール」の入賞作品を紹介します

図書館では、本科1年生を対象に、国語科の協力を得て、今年度も「読書感想文コンクール」を開催しました。学生が自由に選んだ図書について、原稿用紙(400字詰)3枚以上5枚以内で感想文を書き、夏季休業後に提出してもらいました。

応募作品数は158あり、1次審査で、各クラスから3～5編を選定し、20作品が2次審査にノミネートされました。

2次審査では、その中から審査員が順位をつけ、下記のように入賞者を選びました。最優秀賞・優秀賞は、複数の審査員が高く評価した作品です(作品の後に選評も掲載しています)。

11月22～28日開催の図書館運営委員会で最終審査・決定し、12月6日に校長室で表彰式を行いました。



表彰式

最優秀賞			
クラス	名前	読んだ本	著者
1-2	北尾 夏帆	52 ヘルツのクジラたち	町田そのこ
優秀賞			
1-1	三島菜都子	両手にトカレフ	ブレイディみかこ
佳作			
1-1	井上 莉杏	カラフル	森絵都
1-1	古賀 華	星の王子さま	サン＝テグジュペリ
1-2	坂本 奈優	あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。	汐見夏衛
1-2	堀場 晶姫	名前探しの放課後	辻村深月
1-3	田村 綾梨	幕が上がる	平田オリザ
1-4	原 花楓	まだ見ぬ春も、君のとなりで笑っていたい	汐見夏衛
1-5	鶴亀琥太郎	52 ヘルツのクジラたち	町田そのこ

最優秀賞と優秀賞の作品（読書感想文）を掲載します。

## 最優秀賞 五二ヘルツの声

### 1—2 北尾 夏帆

「52 ヘルツのクジラ。」その声を聞いて私は「今にも泣き出しそうなくらい悲しく、弱々しい声」だと感じた。「52 ヘルツのクジラ」とは普通のクジラと声の高さ（周波数）が全く違って、他のクジラたちに声が届かない、世界で一番孤独だと言われているクジラである。本の中では「孤独の象徴」として描かれていて、主人公の三島貴瑚や彼女に匿われる少年・52（本名・愛）を表している。



長い虐待に耐え、生きづらさに苦しむ二十代の女性、貴瑚が移住先で、育児放棄され声が出せなくなった少年、愛と出会う。貴瑚は自身のかつての姿と少年を重ね合わせて、聞き逃した声に対する贖罪として少年を助け出す試みを行っていく。「孤独」に苦しめられる二人が出会い、安らぎを得ていく。それは明るく素敵な物語だが、私はこの本を読みながら、心が痛んだ。

私が中学の頃、いつも優しく笑っているとて明るい性格の友達がいた。だが、彼女は精神を病んでしまい、ある日から学校に来なくなってしまった。彼女は不登校になる前に「父親が厳しくて怖い。」という話をしてくれたことがあった。しかし、私はどのように返事をすればよいか分からず、曖昧な返事でお茶を濁してしまった。今になって思うと、彼女は「52 ヘルツの声」で私に「助けて。」と必死に叫んでいたのだと思う。

彼女は本の中の、過去の貴瑚に似ている。貴瑚の声は偶然再会した高校時代の友人の美晴と美晴の同僚のアンさんに届いた。それから、美晴やアンさんによって貴瑚は実家での虐待と奴隷生活に終止符を打つことができた。美晴やアンさんに救われていく中で貴瑚は「今まで誰が、わたしにそんなこと（優しいこと）を言ってくれただ

ろう。誰がわたしを救い出してくれたんだろう。」と考えた。私はその言葉で胸が痛んだ。「私が曖昧な返事をした時、彼女はどれほど絶望したのだろう。」と。貴瑚がそうであったように、誰も助けてくれない「孤独」は心に染みついてしまう。私が美晴たちのように彼女の声を聞いていたなら、心の中に踏み込んでいたなら、彼女の心の「孤独」の染みを薄めることができたのかもしれない。

私はこの本を読んで、「行動を起こすことの大切さ」について気付かされた。街中で、ボロボロの服を着て血色の悪い顔をしている女性がいても、私は声をかけようか迷うが、最終的には「関わらないほうがいい。」と感じて逃げてしまうと思う。でも、本の中のアンさんはその女性の異変に気付き、美晴と声をかけた。その女性こそが貴瑚であり、アンさんが声をかけたことがきっかけで貴瑚は救われた。また、救われる側だった貴瑚もアンさんの行動力に影響を受けて、愛を助けるために様々な行動を起こすようになった。このように「行動を起こす」ことは、状況を変えるだけでなく、周りの人にも良い影響を与えることができる。だから、私は「行動を起こさないと何も変わらないから、目の前にある問題を頭で悩む前に、まずは少しだけ行動を起こそう。」と考えるようになった。

人には様々な悩みがあり、その悩みを誰にも相談できずに一人で苦しんでいる「52 ヘルツのクジラたち」が世界中にたくさんいると思う。人は一人で孤独に生きていくことなんてできない。だからこそ私は彼らに「52 ヘルツの声を止めないで。必ず誰かに届くから。一人で苦しまないで。」と伝えたい。

思えば、この二年半余、自粛生活やマスク着用により、私たちの会話や交流が減り、人と人との隔たりが深くなった。学校生活でも様々な規制がされ、友達と親睦を深めることが難しくなっている。この生活により孤独を覚える人も多くいるだろう。そんな状況下だからこそ私は一度聞き逃してしまった「52 ヘルツの声」に耳を澄まし、彼らを救える行動を起こしていきたい。

### 選評

• 作品の主題と自分の経験を絡めて、感想文



に訴えかける力があつた。

- 本の内容を受けて自分の経験を振り返り、説得力のある内容になっていた。
- (北尾さん自身が) 今なら本当に返事ができるのか、などさらに掘り下げてみると深みが出たのでは。

## 優秀賞 小さな声に耳を傾ける社会へ

### 1-1 三島 菜都子

ヤングケアラーについてどこまで理解できているだろうか。ヤングケアラーとは病気や障がいを持った家族の介護や世話をしている十八歳未満の子供のことだ。私は最近「ヤングケアラー」という



言葉をテレビなどで聞く機会が増え、身の回りの情報だけで自分なりに解釈して分かった気になっていた。しかし、この本に出会い衝撃を受けた。それは想像をはるかに超える世界だと知ったからだ。そして現在不自由なく過ごしていることがどれだけ恵まれていることなのか痛感した。

主人公ミアはイギリスに住む十四歳の少女で母、弟と暮らしているが、母は酒に依存していて、介護が必要な状況になっている。そのためミアが家事や弟の迎え、母の介護をしている。つまり、ミアはヤングケアラーである。ある日ミアが図書館で日本人のカネコフミコという人の自伝と出会い、彼女の「世界」が少しずつ変化していく話だ。

私はこの本を読んでミアの家庭を守る責任感と覚悟に心を打たれた。私はいつも家では自分のことばかりで家事や料理をほとんど親に頼っている。しかしミアは誰にも頼ることなく家事や弟の迎え、母の介護を当たり前のようにして過ごしている。なぜミアはこれほど家族のために生活しているのか考えた時に私は一つの答えにたどり着いた。それは、ミアはずっとこの生活を送っているため、当たり前だと思っているかもしれないということだ。ずっとこの生活を送っ

ていたら自分がヤングケアラーだということに気が付かないだろう。私は現在もこのような問題が起きているのではないかと思う。世界の中のどこかにミアのような生活を当たり前のようを送り、誰にも相談できない子供がいると思うと心が痛い。私は今までの行動が恥ずかしくなった。学校や塾にも行かせてもらっているこの生活は有難いことだと改めて感じた。だからこそこの大切な貴重な時間を自分のことだけでなく、周りの人のためにも使おうと思う。

私はこの本を読んでいくうちに一つ疑問が生まれた。それはヤングケアラーの対策が昔と変わっていないことだ。この物語ではミアの住む世界と百年前のカネコフミコの住む世界が交互に書かれている。ミアはフミコの作品を読んでいくうちに同級生の誰よりもフミコが一番近い存在になっていくが、そのことは同時に百年前と状況が変わっていないことを表していると思った。なぜこのようなことが起きているのか考えてみた。

それはヤングケアラーについての情報が少ないからだと思う。最近になって様々なメディアが取り上げているが、ニュースなどで報じられていることはすべての生活を放送していないため、大変さや実際の状況が伝わりづらい。問題は昔から起きているのにヤングケアラーという言葉が日本で使われ始めたのは最近だ。それほど対策が進んでいないことが分かる。その理由として誰がヤングケアラーなのか把握できていないことが原因だと思う。状況が把握できないと対策の打ちようがない。私は安い金額で食事や学習ができる場所を増やすべきだと思う。その場所に同じような生活を送っている子供たちが集まれば少しでも心が軽くなったり、相談できる機会も増えたりすると思う。中でも私はすべての子供が学習できる場所を増やしてほしい。将来 AI などの技術が進み、人間の仕事が減ることによって人間に求められる仕事はより高度なものになると思う。しかし、それを求められるのは今の子供たちだ。今満足できる教育が受けられないと将来仕事ができず、差がついていく一方だ。私はこの問題を見逃してほしくない。そして、今すぐにも動くべき問題だと思う。高齢化が進むとヤングケアラーになる子供は増えるだろう。

## 読書感想文コンクール・ブックハンティング

しかし、少子高齢化問題を解決することは時間がかかりすぎる。そのために少子高齢化を止める対策ではなく、どう付き合っていくのか考えることが大切だと思う。すべての子供が満足でき、活躍できるような世界になってほしいと心の底から思う。

私はこの本を通して貧困や、ヤングケアラーの現状について知ることができた。しかし、この問題は決して他人事ではないと思う。いつ家族の誰かが介護が必要な状況になるか分からないし、自分が介護される側にもなりえる。だからこそ普段の生活からは気が付くことのできなかった問題について知ることができ良かった。しかし、私はもっと早くこの問題について知っておくべ

きだったと後悔している。当たり前前に学校に来ていた友達の中にもヤングケアラーで悩んでいる人がいたかもしれないと思ったからだ。気が付かないだけで助けを求めていた人もいたかもしれない。もしいたとしたら私は何もできなかったし、声をかけることもできなかった。ミアのような生活を送る子供がいなくなり、小さな声にも耳を傾けるような世の中になってほしい。

### 選評

- 社会的問題を他人事ではなく自分事としてとらえていて評価できる。
- 現代社会の抱える問題についてきちんと考えている姿勢に好感を持てた。

ビブリオバトルで紹介された本、読書感想文コンクールの入賞作品で読まれた本は、図書館にあります(購入手続き中のものもあります)。どうぞ読んでみてください。

## ブックハンティングによる購入図書のご案内

6月と7月にブックハンティングを行い、図書委員に実際に書店で選んでもらって購入した図書(下記の48冊)を配架しています。学生が作成した本の紹介ポップも添えてあります。(ブックハンティングの記事は、米子高専のホームページ「お知らせ」で既報です。)



書名	著者	書名	著者
心心(シンシン):東京の星、上海の月	石田衣良	百瀬、こっちを向いて。	中田永一
シンデレラ城の殺人	紺野天龍	野良犬の値段 上	百田尚樹
風を彩る怪物	逸木 裕	野良犬の値段 下	百田尚樹
マイクロバイ・アンサンブル	伊坂幸太郎	天久鷹央(アメクタカオ)の推理カルテ	知念実希人
マスカレード・ゲーム	東野圭吾	水車館の殺人	綾辻行人
無敵のコミュ術	ひろゆき	平家物語:犬王の巻	古川日出男
妖しきご縁がありますように	山吹	ジャイロスコープ	伊坂幸太郎
14歳の世渡り術 ショートショートでひらめく文章教室	田丸雅智	君を愛したひとりの僕へ	乙野四方字
未来の科学者たちへ	大隅良典、永田和宏	僕が愛したすべての君へ	乙野四方字
20代を無難に生きるな	永松茂久	精神科医が教えるすりへらない心の作り方	保坂 隆
同志少女よ、敵を撃て	逢坂冬馬	やりたいことが見つからない君へ	坪田信貴
論文の教室:レポートから卒論まで	戸田山和久	檸檬	梶井基次郎
もっと!京大変人講座	酒井敏ほか	虚構推理	城 平 京
パナの魅力を100文字で伝えてください:誰でも身につく36の伝わる法則	柿内尚文	本のエンドロール	安藤祐介
人は2000連休を与えられるとどうなるのか?	上田啓太	短編アンソロジー 学校の怪談	集英社文庫編集部

## ブックハンティング・部門推薦図書・KOSENフォーラム

書名	著者	書名	著者
神薙虚無(カンナギウロム)最後の事件	紺野天龍	岩窟姫	近藤史恵
夜明けのすべて	瀬尾まいこ	食堂かたつむり	小川 糸
カケラ	湊かなえ	ミッキーマウスの憂鬱	松岡圭祐
爆弾	呉 勝浩	神モチベーション「やる気」しだいで人生は思い通り	星 渉
正欲	朝井リョウ	夏の体温	瀬尾まいこ
invert : 城塚翡翠倒叙集	相沢沙呼	空想科学読本 1	柳田理科雄
余命一年と宣告された僕が、余命半年の君と出会った話	森田 碧	あの人ひとりがこの世のすべてだった頃	ナ・テジュ
残像に口紅を	筒井康隆	海をあげる	上間陽子
その可能性はすでに考えた	井上真偽	くるまの娘	宇佐見りん



ブックハンティングの様子(今井書店錦町店)

## 部門推薦による図書のご案内

各部門(コース)から推薦された図書を図書館(交流プラザ)に配架しています。

①1・2年生にも分かりやすい入門的な図書、②3年生以上を対象とした探究的な図書、③当該部門(コース)に関連する、広く学生の興味・関心を喚起する図書、④高校生・大学生の時に読んでほしい図書、⑤教養を高められるような図書(リベラルアーツに関する図書)、⑥その他当該部門(コース)において学生に必要と考える図書です。

今年度は、M:19冊、E:12冊、J:19冊、C:21冊、A:17冊、G:31冊の合計119冊を購入しました。

1年生の専門コース選択の参考にしたり、リベラルアーツに触れたり、図書館を活用してほしいと思います。



部門推薦図書コーナー

## 令和4年度 KOSEN フォーラム・オーガナイズドセッションのご報告

国立高専機構による令和4年度のKOSENフォーラム(KOSENフォーラム2022)において、本校ではオーガナイズドセッションで「高専図書館のあり方を考えるーリベラルアーツの視点から」(9月5日(月)10時35分～)をオンライン(Teams)で主催しました。

図書館長・リベラルアーツセンター長(加藤)の趣旨説明の後、基調講演を筑波大学図書館情報メディア系講師の大庭一郎先生にいただきました。演題は、「高等専門学校図書館の基本機能：学生の研究

力を支えるリベラルアーツの育成」で、トピックスとして、高専図書館の研究、特徴、歴史、論点、サービス(悉皆調査の結果)、高専図書館を支える組織、学生の研究力を支えるリベラルアーツの育成、高専図書館のサービスの構成要素、課題について取り上げられました。

質疑・意見交換では、松江や茨城などの高専から発言いただき、高専図書館とリベラルアーツなどについて考える良い機会とすることができました。



オーガナイズドセッションの様子

## 【趣 旨】

高専は、教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備え、専任の職員や設備を備えるものと設置基準に規定されている。

インターネットが普及し、デジタル化が進む中で、図書館の位置づけ・役割や機能も見直しが求められているのではないかと。学生の図書館離れは進んでいないだろうか。

本校ではリベラルアーツ教育を推進しているが、図書館を活用して学生たちが読書などを通じて、世界観や倫理観を獲得し、価値観を創造し、自ら学ぶ態度を養ってくれるようにするにはどうしたらよいか。

高専図書館とリベラルアーツなどについて考えていきたい。

## 図書館業務・活動記録

- |   |   |
|---|---|
| 6月21日(火)ブックハンティング(1回目)<br>(今井書店錦町店)   | 9月20日(火)臨時休館<br>(台風接近に伴う登校禁止のため)                      |
| 7月14日(木)～9月7日(水)<br>夏季長期貸し出し(特別貸出)の実施   | 10月4日(火)～<br>「卒論貸出」(対象:本科5年生・専攻科2年生、期間:1か月)の実施        |
| 7月19日(火)ブックハンティング(2回目)<br>(今井書店錦町店)   | 10月13日(木)図書委員会(第2回)<br>(創造ゼミナール室2)                    |
| 7月27日(水)図書部会(第2回)<br>(創造ゼミナール室2)  | 11月3日(木・祝)ビブリオバトル<br>(高専祭:ロータリーステージ)                  |
| 7月30日(土)・31日(日)・8月6日(土)・7日(日)<br>前期期末試験に合わせた開館  | 11月10日(木)読書感想文コンクール2次審査<br>(一般ゼミナール室)                 |
| 8月2日(火)図書館運営委員会(第1回)<br>(創造ゼミナール室2)   | 11月22日(火)～28日(月)<br>図書館運営委員会(第2回)<br>(Teams 審議)       |
| 8月12日(金)～19日(金)<br>臨時休館(一斉休業等のため)   | 11月23日(水・祝)・26・27日(土・日)・12月3・4日(土・日)<br>後期中間試験に合わせた開館 |
| 9月5日(月)令和4年度KOSENフォーラム<br>オーガナイズドセッション「高専図書館<br>のあり方を考えるーリベラルアーツの視<br>点から」を主催《オンライン(Teams)》 | 12月1日(木)～22日(木)<br>冬季長期貸し出し(特別貸出)の実施                  |
| 9月6日(火)臨時休館<br>(台風接近に伴う登校禁止のため)   | 12月6日(火)読書感想文コンクールの表彰式<br>(校長室)                       |

※記事において、学科等の名称をアルファベットで表記している箇所があります。

M…機械工学科(機械システムコース)、E…電気情報工学科(電気電子コース)、D…電子制御工学科、J…情報システムコース、C…物質工学科(化学・バイオコース)、A…建築学科(建築デザインコース)、G…教養教育部門、S…専攻科  
例えば、「2-1(M)」は2年1組機械システムコースの学生を表しています。

発行：米子高専広報室

〒683-8502 鳥取県米子市彦名町4448 TEL: 0859-24-5000 FAX: 0859-24-5009  
ホームページ: <https://www.yonago-k.ac.jp/> 印刷: 東京印刷株式会社